

### Ⅲ 総務委員会の事業計画

#### 1. 概要

ばね工業会が創立62年目を数える今日、構成会員と共に新たな進路を求めなければならない時期である。すべての会員は一昨年秋以降の世界恐慌とも言うべき厳しい経済状況下、ひたすら事業存続に懸命に取り組み、最悪期をようやく脱したとは言えるが、今、息つく事は出来ない状況である。

先輩方が興し、我々が引き継いできた「安くて良いものを生産する仕組み」と言う業界のお家芸は、世界の中の新たな競争相手に取って代われようとしているのではないか。我々には21世紀に踏み出す“新たな一歩”が喫緊の課題であると言える。

法人としては新たな公益法人制度への対応を求められている今こそ、会員企業の発展の為の業界団体としての役割の再検証、ひいては日本の産業界におけるばね工業会のあるべき姿の再構築が求められており、この難しい役割を果たしていくことが責務と考えている。

本年度も基本的には理事会の決議に伴う実施案件を担当する。一昨年からの厳しい経済状況により本年度は収支見通しが非常に厳しい、事業の充実を図ることは当然のこととして、事業実施においては一層の経費圧縮を心がける。

特に本年度から来年度にかけての大きな課題として、平成20年12月に施行された新公益法人制度へのばね工業会の対応について取りまとめ理事会、総会へ提言する。

#### 2. 活動の詳細

##### 2. 1 国際交流事業について

本委員会では世界のばね産業界において、日本のばね産業および日本ばね工業会の存在を高めるためにも積極的に国際交流、情報提供を図る。

欧州ばね工業会連合(E S F)がホストで4月14日にデュッセルドルフで開催される三極国際ばね会議への代表団を派遣する。

平成22年6月に開催される中国(広州)国際ばね産業展示会へ視察団を派遣する。

平成22年11月に大阪で開催予定のISO/TC227ばね第6回国際会議を支援する。

##### 2. 2 新公益法人制度への対応について

本年度総会においてばね工業会の対応について承認を得るとともに、平成23年度中に移行認可申請が行えるよう取り組んでゆく。

### 2. 3 ばねの歴史編纂発行について

発刊時期を平成 23 年度として本年度の活動を行う。

昭和 59 年発行の「日本のばねの歴史」以降の技術史、産業史を体系的に整理した内容のものを専門執筆者により纏める。

発行費用については継続して積み立てる。

### 2. 4 調査・広報活動

ばね工業会の活動状況を広く会員への広報するため種々の活動を充実させる。

機関誌ばねは例年通り隔月に 6 回発行する。技術情報の掲載など内容の充実を図るとともに、ホームページとの一体的な活用を目指し内外への情報発信に務める。ホームページの活用により情報発信のスピードアップを図る。

会員生産月報、経済産業省金属製品統計および財務省貿易統計のばね関連統計を速やかに収集し、機関誌ばね並びにホームページに掲載するなど、広く関係者の閲覧に供する。

日本ばね工業会プロフィール（日文・英文併記）を改訂発行する。